

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170700167		
法人名	(有)さわやか門前		
事業所名	グループホーム 門前		
所在地	佐賀県鹿島市古枝1650番地		
自己評価作成日	令和6年2月17日	評価結果市町村受理日	令和6年 6月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和 6年 3月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○どこか懐かしさを感じる中で、お一人お一人が個々の生活リズムで、ゆっくり、楽しく、穏やかに日々を過ごされるよう、五感さらには六感を研ぎ澄ませ、お気持ち、思いを聴くことを一番に支援している。  
 ○毎月ご家族へ、ご本人のひと月の様子がわかる写真入りのお便りを送っている。毎月書く担当を変え、事業所の思いも一緒に、少しでもお伝えできればと手書きでの作成に拘っている。  
 ○栄養状態の把握を行ない、管理栄養士による栄養改善指導を受けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは多くの観光客が参拝する三大稲荷の一つである祐徳神社の門前に位置している。古くからある院を改修したグループホームで、開設当初より、地域の方との長年の関係性が築かれている。新型コロナウイルス感染症により、制限されていた活動も今後は、コロナ感染症まん延以前の活動ができるように、感染対策をしながら再開出来るように考えられている。介護度の高い利用者もあり、月に1回、管理栄養士により栄養指導が行われたり、職員による病院受診支援等日頃の健康管理や、適切な医療支援が出来るように取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示、ミーティング、日々の申し送りやケアの中で、互いに確認しあい実践に繋がるよう心がけている。	理念は、職員の目に届くように事務所に掲示されている。ミーティングでは支援の場面ごとに振り返りを行い、理念に沿った支援ができるように心掛けられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は、コロナ後少なくなったと感じる。近隣のお店から食料品や嗜好品を購入する等、関りの機会を常時考えている。	感染症まん延に伴い、地域の方との交流の場がなくなっており、最近は、徐々に近隣のお店に買い物に行ったり、地域の溝掃除に職員が参加し関係が途切れないように努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症対策をしている中で、限られた地域との交流の場を最大限に活かそうと運営推進会議の場などを活用し、介護に関する相談や情報交換を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より対面での開催を再開し、互いの情報交換の良い機会となっている。また、施設での悩みに協力の言葉をいただいたり、案をいただいたりしている。	公民館で、2ヶ月に1回開催され、行政、民生委員、区長などの参加もあり、取り組状況の報告や相談を行いサービス向上に繋がっている。家族の参加がなく、会議内容は、文章での報告にとどまっている。	運営推進会議の開催日時を選定を行う際、家族が参加しやすいように工夫し、多くの意見をサービス向上に活かせることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回開催の運営推進会議に、市役所長寿社会係より毎回参加いただき、情報共有、協力をお願いしている。	行政への相談は、市役所へ出向き細目に行っている。コロナ感染症まん延以前は行政と一緒に「認知症サポーター養成講座」を行っており、行政とは協力関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の開催、運営推進会議での共有を行なっている。拘束ゼロに向け、日々ケアの方法を考えている。適正化委員会以外でも、月の定例ミーティングでの意見交換も行なっている。	現在身体拘束は行われていないが、玄関に鍵がかけられている。身体拘束についての研修はリモート等で参加できるようにし、一人ひとりの職員が正しく理解できるように取り組まれている。	玄関の施錠については施錠時間を短めながら体制を整え、玄関の施錠をしない取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止対応委員会の開催、虐待防止研修(内・外)などで学ぶ機会を持ち、注意・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が居り、後見人の方と一緒に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間に余裕をもってきていただき、ゆっくりと説明できるよう心がけている。疑問・質問などあれば、その都度説明、対応することようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々過ごす中で、家族からは面会や電話、お手紙などのツールで、直接的また間接的に意見表出を図っている。さりげない会話の中に意見や要望が潜んでいると考える。	家族が面会される際に声掛けを行い、希望や意向を聞くようにし、寄せられた意見は、ミーティングの際に職員間で改善に向けて検討し、反映出来るように取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見や提案の機会を持ち、反映されている。それ以外でも、意見を言う機会がある。	職員の意見や要望は月1回のミーティングで聞くよう取り組まれている。日頃から代表や管理者は話しやすい雰囲気づくりに努めており、職員は様々要望を伝えている。管理者や代表は、出来るだけ反映できるように努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その時々状況に応じて、勤務形態などを検討・変更したり、働き易いように整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は提供されているが、感染対策もあり、事業所内研修が主となっている。勤務に余裕がある時は、オンライン研修で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会が隔月実施されており、様々なテーマで研修や情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は関りをより密にとることで関係構築に努めるよう心がけている。また、ご家族や本人に関りのある方々からの情報も活かすようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期は特に連絡を密にとり、本人の状況などを伝えるようにしている。 また、初期に拘わらず、面会の際や電話などでも会話の中から要望などを汲み取れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とする支援をミーティング、またそれ以外でも随時話し合い、できる限り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々人の残存能力を見極め、できることを支える立場として関わられるよう、職員間で個々の情報共有をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況を報告し、本人の思いと家族の思いの間に立てるよう努めている。ご家族との面会や電話、関りがその後どのように強くプラスに影響しているかを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策により、面会のご家族が中心となっているが、電話など他の手段を案内している。また、写真を部屋に飾るなどし、関係が途切れない様努めている。	コロナ禍での面会制限等で、外部の方と接する機会が少なくなっているが、最近では感染症対策を取りながら、家族との面会ができています。また、法事への参加をしたり、家の近くまでドライブをするなど工夫しながら支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での席や、配置、職員が橋渡しなどを工夫している。 季節物の作品の作成など、皆で一つの事を達成することの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、転居先への情報提供を行っている。面会に伺う。 フォロー体制は常にとれるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から思いや意向を汲み取れるよう、心がけている。利用者各々に関わる方々からの情報も、思いや意向に繋がるものではないかと常々考えるようにしている。	日頃の生活状況から思いをくみ取るようにし、入居者が答えやすく意向を示しやすいよう、問いかける工夫をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に関わるあらゆる人達から情報収集し、サービスに活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の微妙な変化など、利用者の状態を観察・記録し、職員で共有・対応・検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時、話し合い、意見などを共有している。 面会、受診時に直接会って、手紙、電話など、あらゆるツールを使い意見などをうかがっている。	本人、家族の意向を聞き、日頃の状況をミーティングで話し、現状に即した計画を作成されている。定期的に評価を行い必要時に見直しを行うようにされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットやスマートフォンでの共有を行なっている。 が、見過ごしたり、覚えていなかったりすることがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズへの柔軟な対応はできるように努めている。本人と本人に関わる方々の思いの折り合いのつけ方に難しさを感じることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣保班や消防団との避難訓練、図書館からの慰問をそれぞれと話し合う等して、再開を検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を受診継続されるよう、案内している。初診時は同行させてもらう等、利用者それぞれの主治医との関係構築のアプローチを心がけている。	入居前のかかりつけ医の継続受診や往診、他科受診への支援があり、正しく医療機関へ情報を伝え適切な医療が受けられるように支援されている。受診前後、家族へメールや電話で報告相談がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師、訪問診療担当看護師等と連絡を取り合うツールを互いに決め、24時間連絡の取れる環境を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から各病院の入退院窓口と馴染みの関係構築に努め、入退院がスムーズにいくようにしている。入退院時はできる限り早く情報提供できるよう、準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時からタイミングをみて、本人やご家族の希望、意向を聞き、自施設でできることを説明している。方針はご本人を中心とした関係者全てに意見を聞き、集約した形で支援の方向性を決めている。	入居時に書面で方針を説明し、入居後は身体状況に応じて、かかりつけ医から家族、職員へ説明をして頂いている。ホームからは、生活の場として出来る事を伝え、本人・家族へ、その都度意向確認をしている。終末期のケアについては職員研修を通して理解を深めるように取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDなど応急手当の座学の実施はあるが、コロナ期を経てAEDの実践訓練などの実施ができていない。身についているか不安がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防への協力も要請し、日中夜間それぞれを想定した訓練を実施している。感染症対策の一環から地域の交えての訓練ができていない。	年2回夜間想定を含め火災訓練を行っている。漏電の確認や掃除を定期的に行っている。水害の経験から持ち出し備品を小分けしたり、避難場所の見直しをし、経験を活かした体制づくりが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の性格や好みに合った言葉や関わり方を考え、職員間で共有し、対応するよう心がけている。同じ話の繰り返しに、強い口調や声が大きくなってしまふことがあり、別職員と対応を交代する等している。	職員の対応で、口調が強くなる場面では、職員間で注意をしたり、申し送りの時に尊重した対応について共通理解を行うよう努められている。トイレの扉がカーテンである為、プライバシーを損ねないように配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表出しやすいよう、話し方には注意している。 自己決定しやすいよう、各人が答えやすい形式で質問にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活リズムの中で、お一人お一人の体調や気分に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選ばれたもの、好まれるものを優先に、気候やTPOに合った身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きや、食事エプロンの準備など一緒に行なっている。 日頃から、好みのものを話題に話をするなどして、調理担当者に伝えるようにしている。	食事は、系列事業所より配達され、ホーム内で一品増やしたり、食べやすい形態にする等対応されている。管理栄養士の指導や入居者の好みの物を調理担当へ伝え、健康で楽しみがある食事になるように取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	R4.9月から佐賀県栄養士会栄養ケアステーションと契約し、栄養関連の取り組みを行なっている。身長体重の測定や食事や水分の摂取状況を記録し、低栄養リスクのある方を把握し改善への取り組みをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけから、口腔ケアシート、スポンジ、お一人お一人に合った方法での口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定期的な声かけやトイレ誘導を行なっている。自立に向けた支援の一つとして、トイレの場所を示す案内を張り紙で掲示している。	排泄パターンを把握し、自立した排泄支援が出来るよう努めている。出来るだけトイレで排泄できるように支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士や医療連携看護師等に相談しながら、できる限り薬に頼らず便秘解消できるよう、食事からのアプローチの案を練っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全を考慮しながら、できる限り希望に沿った形で支援している。間隔があき過ぎぬよう声かけするが、気分が向かれない時は無理強いせず改めるなどしている。	入浴は週2～3回で、1日3人ほど入られている。一人ひとりの入浴時間はゆっくりとられ会話を楽しまれている。好みの温度や入る順番なども考慮され、入浴を楽しむ支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを崩さぬよう考慮しながら、日中でも休息をとられる方は居室で休んでいただく等、それぞれの状態に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を常時確認できるよう、事務所内の定位置に置いている。内服薬の変更などがあつた際は都度申し送り、共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人に応じた楽しみ等を見つけ、余暇活動や軽作業、家事を日課として支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ後、外出の機会が減っているが、散歩や近隣への少量の買い物などで外出支援を行なっている。	コロナ禍の影響で外出する機会が減っているが、最近は観光客が少ない時に神社へ散歩したり買い物へ行くようにしている。感染対策を講じながら出来るだけ以前のように外出する機会を増やすよう努められている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持しているということに安心感を持たれる方は、ご家族と相談の上所持されている方も居る。所持していることで満足されているのか、使おうとされたことは今までない。使用時は支援できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話の希望があれば、相手に相談の上支援している。 手紙の希望はこれまでなかったが、年賀状やお便りに一言添えてもらう等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下などに季節のもの(制作作品や花、季節の飾り物)を掲示したり、飾ったりしている。 CO2モニターを設置した。	ホームは、懐かしい時代を感じる古いつくりで、廊下などには、季節を感じられるものが飾られ落ち着いた空間づくりがなされている。空気密度モニターを設置し換気を細目にされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は狭く限られているが、会話を楽しむ人同士が集う席、ゆっくり新聞を読める席、静かに過ごすことを好む方が集う席など、お一人お一人のニーズに近い配席を常々考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や鑑賞物や娯楽品など、本人の馴染みの物や好みの物を持参いただき飾る等している。	一つひとつの部屋のづくりが違い入居者それぞれ個性がある部屋となっている。畳に布団が敷かれている部屋もあり、入居者の使いやすい家具や飾り付けで、その人らしい部屋が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に合わせて手すりの位置を変更したり、新たに増設したりしている。 居室内の家具などの配置換えをすることもある。		